

氏名	村 尾 正 治
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第2982号
学位授与の日付	平成8年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Serum thymidine Kinase activity in healthy children and as a marker for childhood malignant diseases (健康小児および小児悪性腫瘍患児における血清チミジン キナーゼ活性について)
論文審査委員	教授 原田 実根 教授 岡 鋈次 教授 関 周司

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

健康小児314例および小児悪性腫瘍患児81例において血清チミジンキナーゼ活性(TK)を測定した。測定には¹²⁵I-iododeoxyuridineを基質としたプロリフィゲンTKキット“第一”を用いた。健康小児でTKは新生児で高く1歳まで急に低下し、さらに14-20歳まで徐々に低下した。白血病/リンパ腫13例および病期Ⅳ期の横紋筋肉腫と神経芽細胞腫5例では初発時にTKは高値を示した。白血病/リンパ腫の初発時にTKと血清LDHの間には相関関係がみられた。2年以上の完全寛解持続例および断薬例の合計60例では2例の慢性ウイルス感染合併例を除けば全例が正常範囲内であった。白血病/リンパ腫の初回強化療法では残存腫瘍細胞の融解および骨髄抑制からの回復のため二相性にTKが上昇した。白血病/リンパ腫、横紋筋肉腫、神経芽細胞腫においてTKは臨床所見を反映し、小児悪性腫瘍において共通の腫瘍マーカーとして利用できた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、腫瘍マーカーとしての血清チミジンキナーゼ(TK)活性について検討したものである。まず、TK活性をradioenzyme assayを用いて健康小児314例を対象に測定し、正常値を設定した。ついで、小児悪性腫瘍患児81例について、初診時、寛解時、再発時のTK活性の測定を行った。その結果、白血病/リンパ腫、横紋筋肉腫、神経芽腫などにおいて、初発時および再発時にTK活性は高値を示し、完全寛解持続例および断薬例は正常範囲を示した。以上の成績から、本研究は血清TK活性が小児悪性腫瘍の腫瘍マーカーになりうることを明らかにしえた点で価値ある業績と考えられる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。